

丹波豪雨災害における 官民の災害対応調査

2014年8月に丹波市市島地区で発生した豪雨災害における行政および住民の災害対応、復旧の取り組みについて、学術的立場から調査を行い、復旧・復興の取り組みに寄与する基礎的情報を構築しました。



丹波市市島地区 豪雨災害被害箇所

活動の概要

目的	2014年8月に発生した豪雨災害における行政・住民の災害対応状況について調査する
連携メンバー	兵庫県丹波市 兵庫県社会福祉協議会 関西大学社会安全学部 越山健治研究室 / 菅磨志保研究室
活動地域	兵庫県丹波市市島地区、春日地区
活動期間	2014年8月～2015年3月

連携の経緯

兵庫県丹波市で発生した豪雨災害被害に対して、災害に関係する大学研究者や実務者のネットワークに調査や支援の呼びかけがあり、関西大学社会安全学部から2研究室が参画した。

解決すべき課題

- (1) 災害被害からの再建計画の立案
- (2) 支援の受け入れ体制や進め方
- (3) 避難や行政対応などの災害調査
- (4) 住民レベルの被害の実態の把握
- (5) 住民の生活再建への道筋
- (6) 災害支援と福祉支援の両立



前山地区聴取調査（2014年11月15日）

大学の役割

災害が発生した際の学術調査は、専門機関の災害対応や住民支援の阻害要因となることが指摘されるが、一方で、教訓や課題の同定や抽出、中長期的な支援内容への展開、今後の災害対策への情報蓄積という点で専門家の役割が問われる場面でもある。この両者は必ずしも対立するものではなく、互いに連携し、被災者・被災地にとって有益となる情報を創出することが求められる。

越山研究室、菅研究室では、これまでの国内外の災害対応事例の研究や、災害対策の検討に関する基礎的知見が蓄積しており、今回の丹波災害が持つ特徴や課題について、研究機関としての立場から積極的にアプローチすることとなった。

越山研究室では、学生とともに、主に

- ①住民の避難状況に関する調査
 - ②避難所の運営状況に関する調査
 - ③行政の初動対応に関する調査
- を実施し、被災地の住民や行政職員、警察・消防職員等からヒアリングおよび現地における情報資料の収集調査を行った。
- 菅研究室では、
- ①災害ボランティアセンターの設営に関する調査
 - ②外部支援者と地域住民の連携に基づく被災家屋の応急復旧過程の把握
 - ③災害時の福祉サービス供給に関する調査
- を実施した。

これら調査で得られた資料と結果、考察をとりまとめ、最終報告書を作成し、それぞれ市役所担当課、市社会福祉協議会に提出した。



丹波市市島地区 豪雨災害被害箇所

研究者の紹介



社会安全学部 教授
越山 健治
(こしやま けんじ)



社会安全学部 准教授
菅 磨志保
(すが ましほ)

専門は都市防災計画・都市復興計画・住宅再建計画。災害や事故など多くの危険が日常に存在する中で、空間デザインや社会のしくみで安全を高める計画を考える研究をしています。

専門は災害社会学、市民活動論。一般市民の視点から、敷居の高くない「防災」のあり方を考えていきたいと思っています。